倉吉市文化財調査報告書　第115集

長谷（ながたに）遺跡発掘調査報告書

一般国道３１３号（北条倉吉道路）
道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

鳥取大学附属図書館
0050277474

平成13年度

倉吉市教育委員会

序

この報告書は、鳥取県倉吉土木事務所が実施する一般国道313号（北条倉吉道路）道路改良事業に伴い、平成13年度に鳥取県倉吉市寺谷字長谷において行った発掘調査の記録です。

今回の調査では、古墳時代後期の古墳２基、弥生時代後期の焼失した竪穴式住居１棟、縄文時代と推定される落し穴４基などを確認しました。古墳は小規模なもので寺谷周辺の有力者の墓と推定されるものです。

この報告書が発掘調査の記録として、多くの皆さんに活用していただき、埋蔵文化財に対する理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査に際してご協力いただきました鳥取県倉吉土木事務所をはじめ、関係各位に対し深く感謝の意を表するものです。

平成14年３月

倉吉市教育委員会
教育長　八　田　洋太郎

倉吉市教育委員会
氏寄贈

例　　言

1　本報告書は、鳥取県が行う一般国道313号（北条倉吉道路）道路改良事業に伴い、鳥取県倉吉市寺谷字長谷において実施した埋蔵文化財発掘調査の記録である。

2　調査体制は次のような組織・編成である。

調 査 主 体　　倉吉市教育委員会

事　務　局　　倉吉市教育委員会文化課文化財係

八田洋太郎（教育長）	景山　敏（教育次長）
眞田　廣幸（文化課課長）	藤井　晃（課長補佐兼文化財係長）
藤井　敬子（文化財係主任）	森下　哲哉（文化財係主任）
根鈴智津子（文化財係主任）	加藤　誠司（文化財係主事）
岡本　智則（文化財係主事）	山﨑　昌子（文化財係主事）
岡平　拓也（文化財係主事）	金田　朋子（臨時職員）

調査補助員　　山根　雅美・松田　恵子

内 務 整 理　　泉　美智子・世浪由美子・松嶋あつ子・竹歳　暁子・山本　錦・湯浅　博・前坂　英樹・明里　千秋

3　調査は加藤が担当した。内務作業は加藤が担当し、松田・金田・松嶋・泉・世浪・竹歳・山本・湯浅・前坂・明里が補佐した。遺物写真撮影は加藤が行い、岡本が補佐した。報告書の執筆は加藤が行った。

4　第１図（地形図）は、国土地理院発行の１：25,000地形図「倉吉」の一部を複製・加筆したものである。

5　挿図中の方位は、国土座標第Ⅴ座標系の北を指す。

6　遺物に付した記号・番号は、本文・挿図・図版で統一している。

7　調査によって得られた資料は、倉吉市教育委員会が保管している。

本 文 目 次

Ⅰ　発掘調査に至る経過 …… 1
Ⅱ　位置と歴史的環境 …… 1
Ⅲ　調査の概要 …… 2
Ⅳ　まとめ …… 14
報告書抄録

挿 図 目 次

第１図　倉吉市周辺の地形と遺跡分布図 …… 2
第２図　長谷遺跡遺構全体図 …… 3
第３図　１号墳１号主体部遺構図 …… 6
第４図　２号墳１号埋葬施設遺構図 …… 8
第５図　２号墳２号埋葬施設遺構図 …… 9
第６図　１号住居遺構図 …… 11
第７図　１号・２号墳出土遺物 …… 13

図 版 目 次

図版１　調査後全景 …… 5
図版２　１号墳・供献土器　１号墳１号主体部 …… 7
図版３　１号墳出土遺物　２号墳１号埋葬施設 …… 8
図版４　２号墳２号埋葬施設供献土器 …… 9
図版５　２号墳　２号墳出土遺物 …… 10
図版６　１号住居　１号～４号落し穴
　　１号・２号土壙 …… 12

Ⅰ　発掘調査に至る経過

平成８年度に、一般国道313号（北条倉吉道路）道路改良事業の計画が鳥取県から倉吉市教育委員会に提示された。その計画は、国道313号に並行して北条町から倉吉市和田まで総延長７㎞の道路建設計画であった。開発予定地とその周辺は、遺物散布地や古墳が点在することから現地踏査を経て、平成９年度に遺跡の有無とその範囲を確定するため試掘・確認調査を行った。その結果、和田地内で大平ラ遺跡、寺谷地内で若林遺跡・八幡山遺跡、そして今回調査した長谷遺跡の存在が明らかとなった。このため倉吉市教育委員会は鳥取県及び鳥取県倉吉土木事務所の委託を受けて、平成10年度・11年度に若林遺跡、平成11年度・12年度に大平ラ遺跡・八幡山遺跡の調査を実施し、今年度は北条倉吉道路に伴う調査の最後として長谷遺跡の発掘調査を行った。

現地調査は5,180㎡について平成13年６月29日～12月13日まで実施した。

Ⅱ　位置と歴史的環境

長谷遺跡は倉吉市街地から北に約2.8㎞の倉吉市寺谷字長谷に所在する。この遺跡は通称大山（標高197.6m）から西側へ延びる丘陵の北西裾近くにあたる。遺跡の北側は、幅約0.15㎞・長さ1.5㎞の西側に開く谷地形となっている。調査地の標高は32～41mの丘陵尾根と斜面部分で、水田面との比高差は約20mである。

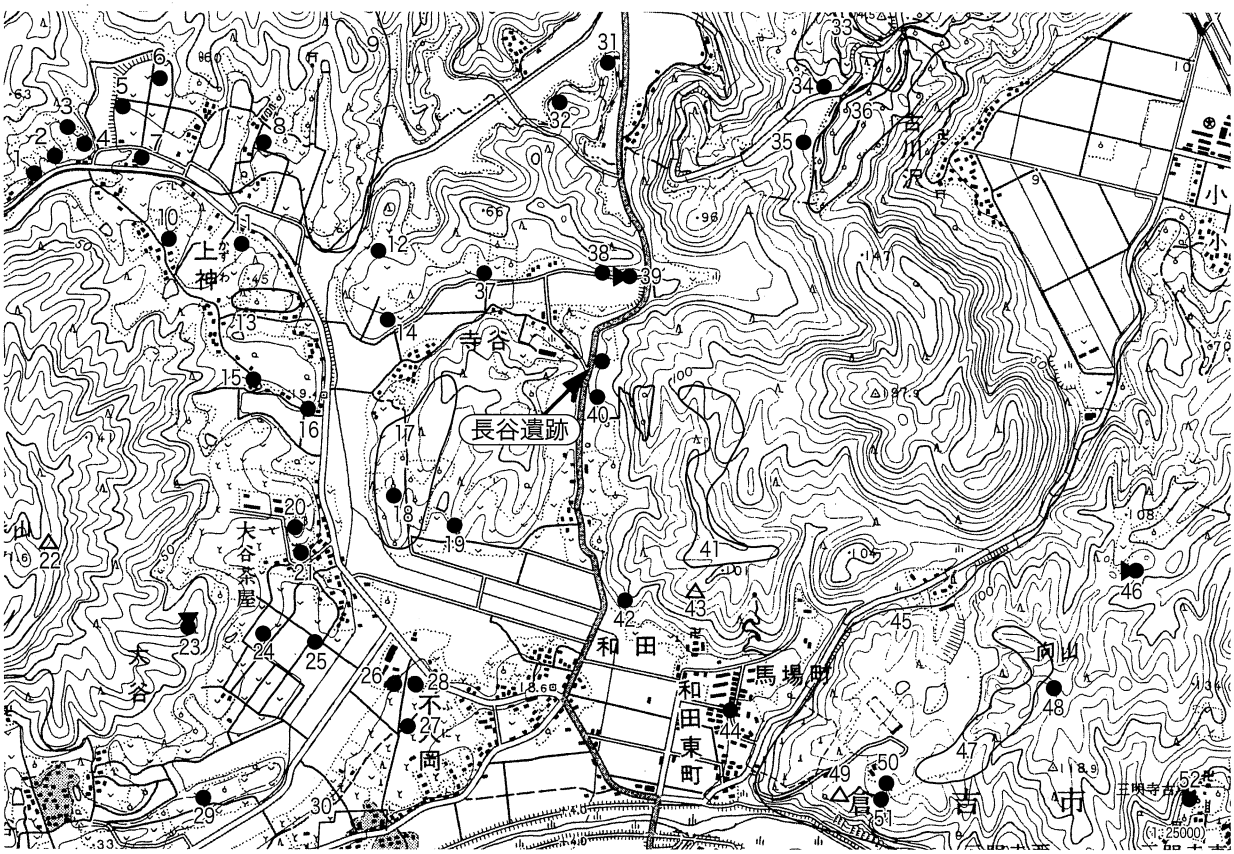
周辺の遺跡は古墳時代を中心として旧石器時代から奈良・平安時代まで多く存在する。以下、遺跡分布図（第１図）の範囲を中心に遺跡の概要を述べる。

縄文時代の遺跡はその多くが土器の出土や、落し穴を確認したものである。巌城の長谷（はせ）遺跡(47)は84基、中尾遺跡(29)は57基の落し穴を確認したのをはじめとして、丘陵の調査では落し穴を多く確認する。長谷遺跡から北に2.4㎞の北条町島遺跡は低湿地に立地する前期～晩期の遺跡で、土器・石器・動物骨格片・丸木舟・貝塚などが出土している。また、北条町米里船渡遺跡(33)は土器・火鑽臼・住居用材と推定される木製品が出土した。

弥生時代は倉吉市西郊の通称久米ヶ原と呼ばれる大山の火山活動により形成された丘陵を中心に集落が広がる。前期の集落址は未確認で、中期の集落は中尾遺跡・沢ベリ遺跡(26～28)・西前遺跡(14)・中峯遺跡・後中尾遺跡などが存在する。後期には遺跡数が増大し古墳時代まで引き続き営まれるものが多い。墳墓は前期土壙墓群の向山古墳群宮ノ峰支群、イキス遺跡、後期は四隅突出型墳丘墓の可能性がある柴栗墳丘墓(16)、手焙り形土器の出土した三度舞墳丘墓がある。また、長谷遺跡から北約１㎞の丘陵先端は米里銅鐸出土地(31)である。

倉吉地方の古墳時代前期の首長墓は、夔鳳鏡をはじめとする３面の舶載鏡や鉄製農工具が出土した国分寺古墳（前方後方〔円〕墳・全長60m）を初現とする。５世紀代は、仿製の三角縁神獣鏡、鍬形石、琴柱形石製品などが出土した上神大将塚古墳（15・円墳・直径22m）がある。中小規模の古墳は、上神猫山遺跡(13)・屋喜山古墳群(17)・イザ原古墳群(25)・下張坪遺跡(36)・夏谷遺跡(41)・大平ラ遺跡(40)など、丘陵上に箱式石棺墓を主体とする古墳群が形成される。６世紀中頃には東伯耆に横穴式石室が導入され、首長墓として６世紀中頃に大宮古墳（円墳・直径28m）が、６世紀後半に向山６号墳（前方後円墳・全長40m）、７世紀に入ると三明寺古墳（52・円墳？・直径18m・国史跡）が築造される。長谷遺跡近くでも横穴式石室を主体とする若林１号墳（38・円墳・直径10m）、偏平板石組石室の若林２号墳（39・帆立貝式前方後円墳・全長22m）がある。

奈良時代には、伯耆国庁、伯耆国分寺、国分尼寺と推定される法華寺畑遺跡、国府関連遺跡と推定される不入岡遺跡(30)が近接して設けられ、伯耆国の中心地として栄える。寺院跡として７世紀代中頃に銅製匙・銅製獣頭が出土した大御堂廃寺、７世紀末に大原廃寺、８世紀には石塚廃寺が創建される。



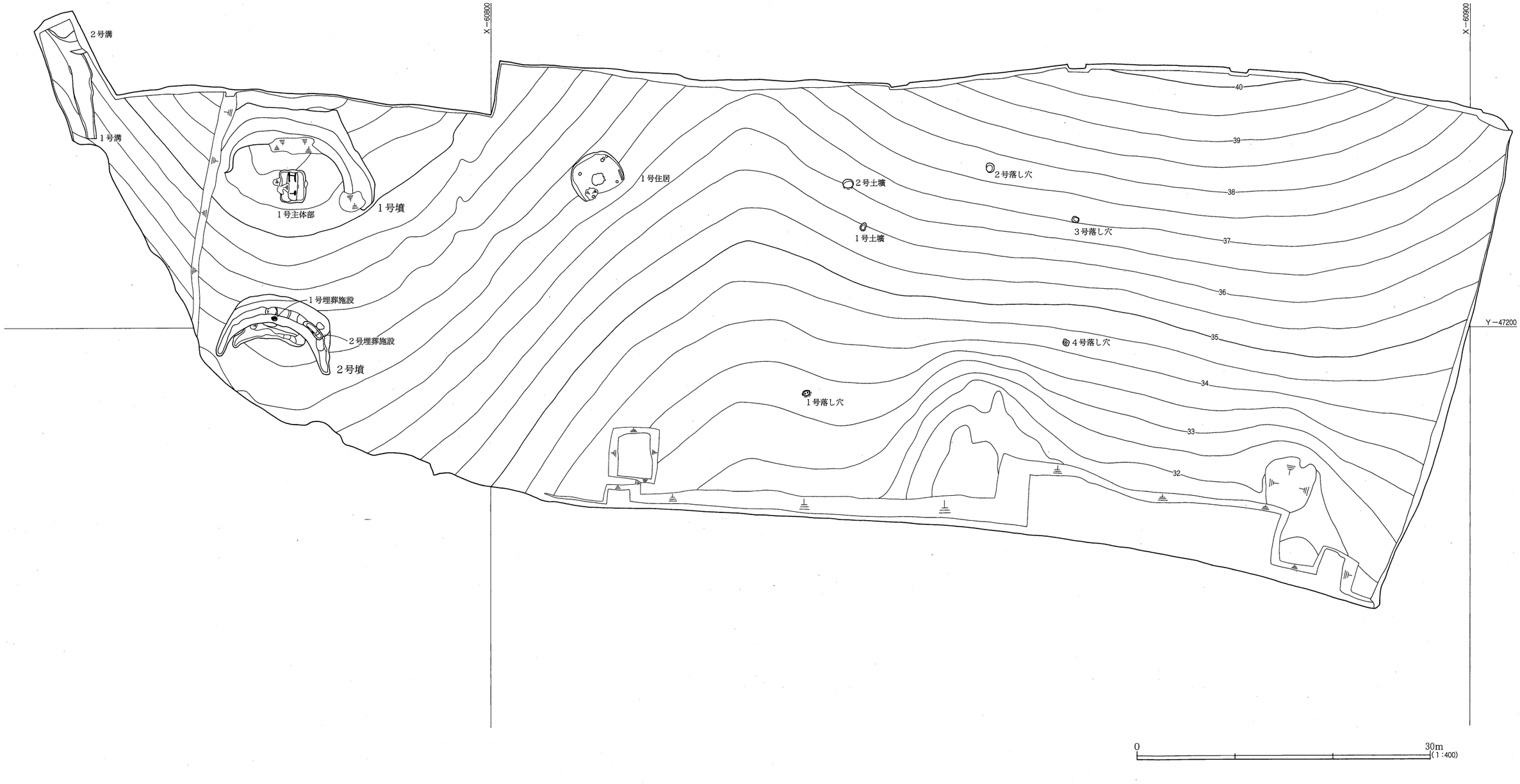
第１図　倉吉市周辺の地形と遺跡分布図

1	上神119号墳	12	トドロケ遺跡	23	大谷大将塚古墳	34	米里第１遺跡	45	向山古墳群
2	クズマ遺跡１次	13	猫山遺跡	24	小林古墳群	35	米里第２遺跡	46	向山６号墳
3	クズマ遺跡２次	14	西前遺跡	25	イザ原古墳群	36	下張坪遺跡	47	長谷遺跡
4	イガミ松遺跡	15	上神大将塚古墳	26	沢ベリ遺跡１次	37	西前１号墳	48	三明寺大将塚古墳
5	西山遺跡	16	柴栗古墳群	27	沢ベリ遺跡２次	38	若林遺跡	49	和田東城跡
6	谷畑遺跡	17	屋喜山古墳群	28	沢ベリ遺跡３次	39	若林２号墳	50	向山309号墳
7	桜木遺跡	18	屋喜山９号墳	29	中尾遺跡	40	大平ラ遺跡	51	向山310号墳
8	上神宮ノ前遺跡	19	西ノ谷遺跡	30	不入岡遺跡	41	夏谷遺跡	52	三明寺古墳
9	上神古墳群	20	三度舞墳丘墓	31	米里銅鐸出土地	42	中峰古墳群		
10	平畑ケ遺跡	21	イザ原遺跡	32	八幡山遺跡	43	和田城跡		
11	東狭間古墳	22	大谷城跡	33	船渡遺跡	44	平ル林遺跡		

Ⅲ　調査の概要

発掘調査は、東から西に延びる丘陵の鞍部を南北に貫く国道313号の道路改良部分5,180㎡について実施した。基本層序は表土、黒褐色土（黒ボク土）、暗褐色土（ソフトローム漸移層）、褐色土（ソフトローム）、黄灰色砂質土（ホーキ火山砂）、橙褐色粘質土（礫混じり粘質土）である。

調査区は踏査と試掘・確認調査によって、調査区北側の尾根で石棺材の散乱を確認し、古墳の存在が想定されたが墳丘はすでに削平されていた。このため、表土が浅い１号墳部分を除き重機で表土、黒褐色土を除去した。その後、暗褐色土を人力で除去後、褐色土または黄灰色砂質土で遺構検出をした。１号墳部分は表土下はすぐ橙



第２図　長谷遺跡遺構全体図

図版１　調査後全景（南から）

褐色粘質土である。遺構測量は工事用の国土座標を利用し、調査区内に４m毎のポイントを打ち平面図を１/20、平板による地形測量図を１/100で作成した。

調査の結果、古墳２基、竪穴式住居１棟、落し穴４基、土壙２基、溝２条を確認した。

１号墳　調査区北端の南東から北西に延びる丘陵尾根に位置する円墳である。古墳の規模は、墳丘の直径約13.8m、周溝を含めて約17.2mである。周溝底から墳丘頂部までの高さ0.55mで、墳丘盛土は遺存していない。

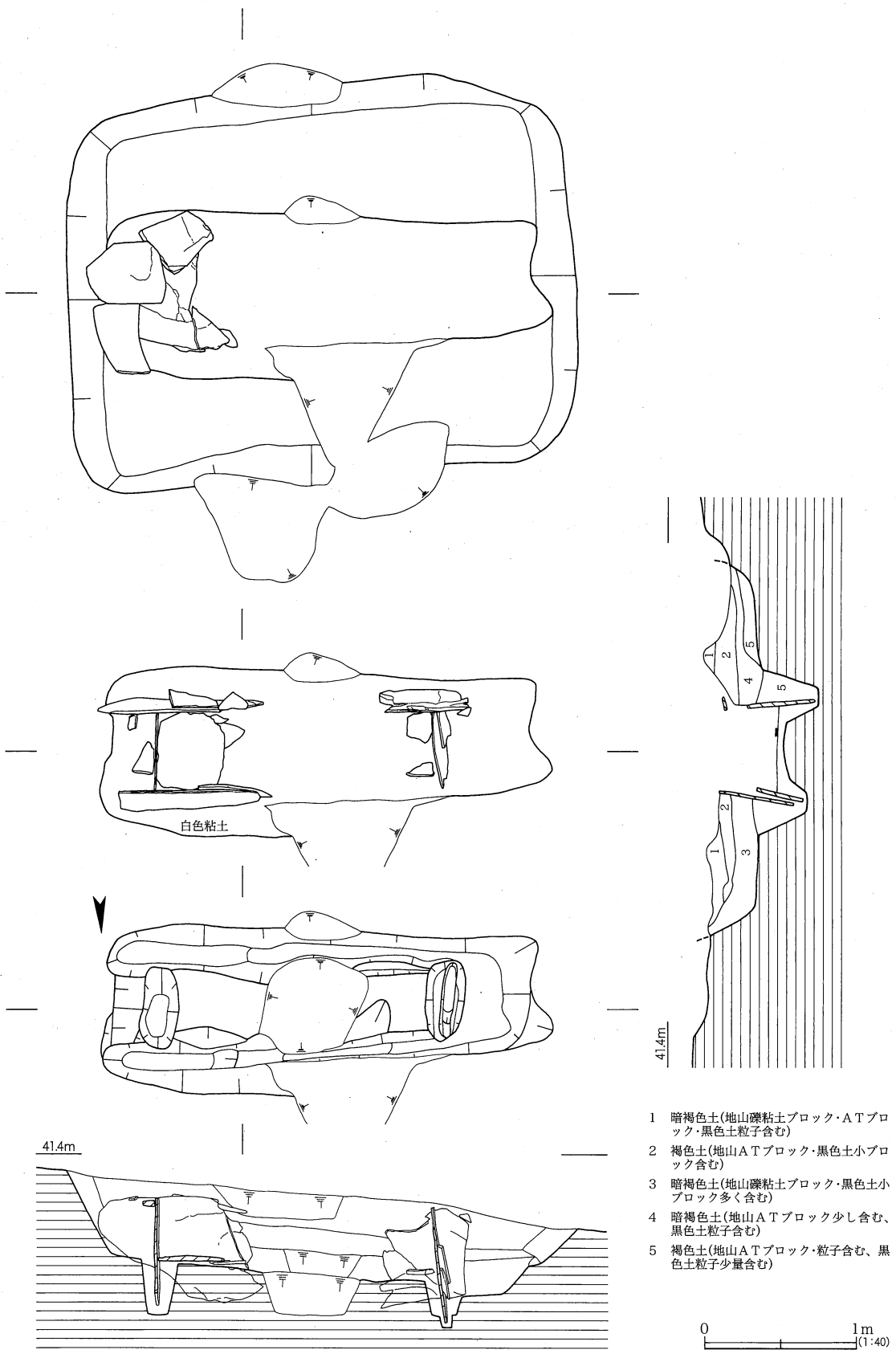
周溝　丘陵の高い側を半周する。墳丘側は丸いが外側については方墳状に角張る。断面形は、開いたU字状で、最大幅3.8m、最大深さ0.97mである。周溝南東部底で、土師器高坏４・５、埦１・２が正立して一括して出土した。その他、土師器甕６、埦３が同じく周溝南東部底で出土した。

１号主体部　墳丘中央部で箱式石棺墓の主体部を１基確認した。掘り方は東西3.36m×南北2.60mの隅丸長方形で、石棺はさらに東西2.95m×南北1.10mを掘り下げ、側石で小口石を挟み込みそなえつける。石棺規模は内法で、長さ1.82m・東側幅0.51m・西側幅0.52mである。石棺底は両小口に板石が敷いてあるが中央部は攪乱のため不明である。頭位は石棺底が約0.07m高い東側と推定される。副葬品は出土しなかった。

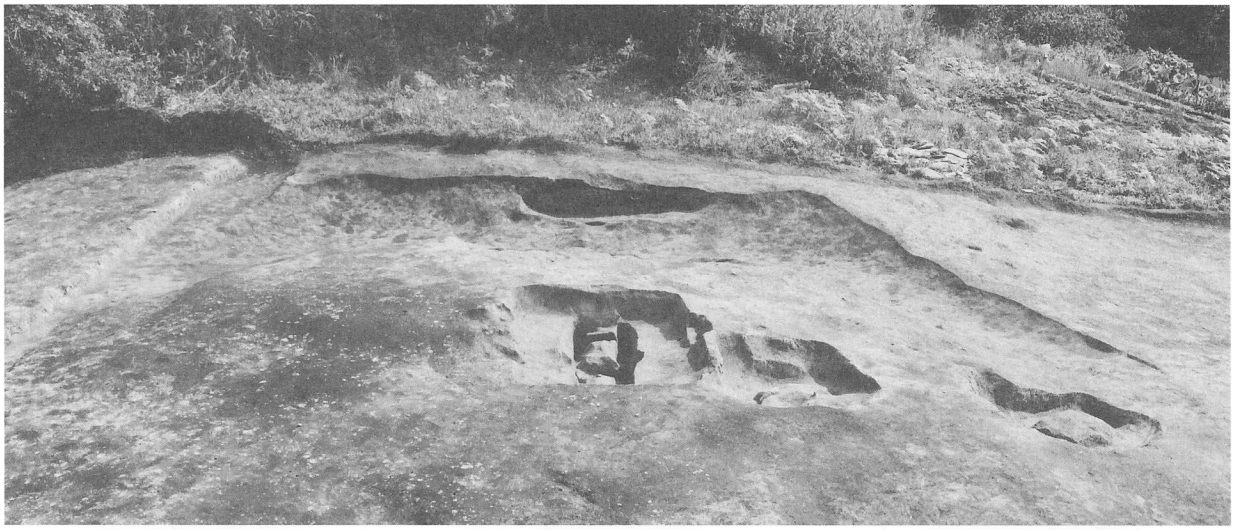
２号墳　調査区北端の丘陵尾根に位置し、１号墳の西側にある円墳である。古墳の規模は、墳丘の直径約10.3m、周溝を含めて約11.7mである。周溝底から墳丘頂部までの高さ1.2mで、墳丘盛土は１号墳と同様に遺存していない。

周溝　丘陵の高い側を半周する。断面形は開いたＶ字状で、最大幅3.1m、最大深さ1.76mである。周溝が途切れる部分は周溝底が立ち上がっていることから、丘陵の低い側には古墳築造時から周溝が巡らないとみられる。また、周溝南東部で周溝底から浮いた状況で、須恵器坏身７～10、短頸壺13、平瓶14、有蓋高坏11・12などが出土した。その他埋土中から鉄釘Ｆ１が出土した。

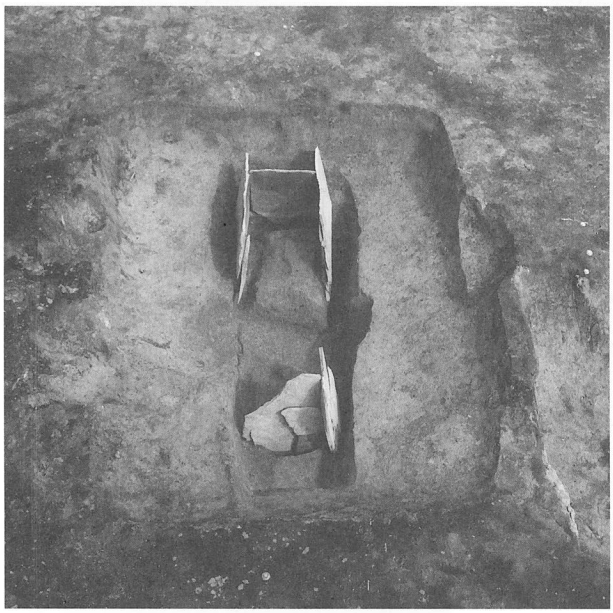
埋没周溝　周溝検出面の墳丘側で、周溝に接して孤を描いて並行し、最大幅約1.4m・深さ約0.1mの溝を確認した。この溝は断面の切り合いから周溝より古いことが分かる。遺物は出土しなかった。



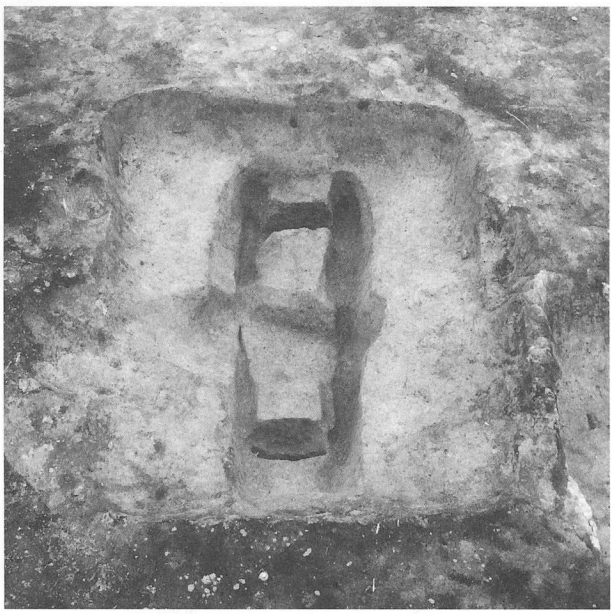
第３図　１号墳１号主体部遺構図



１号墳（西から）

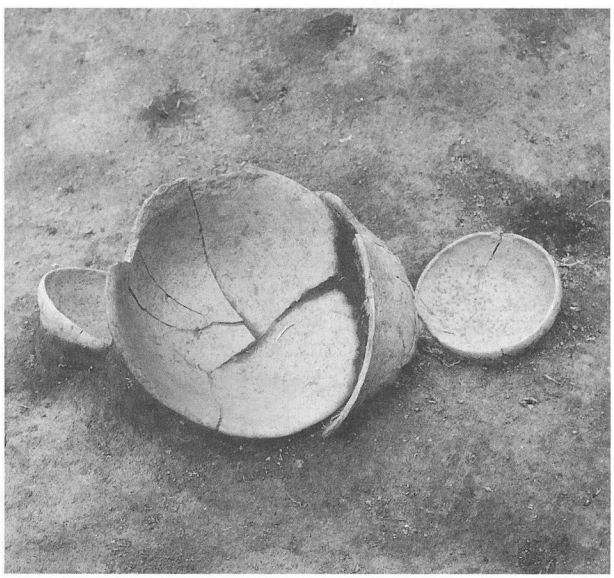


１号墳１号主体部　石棺（西から）



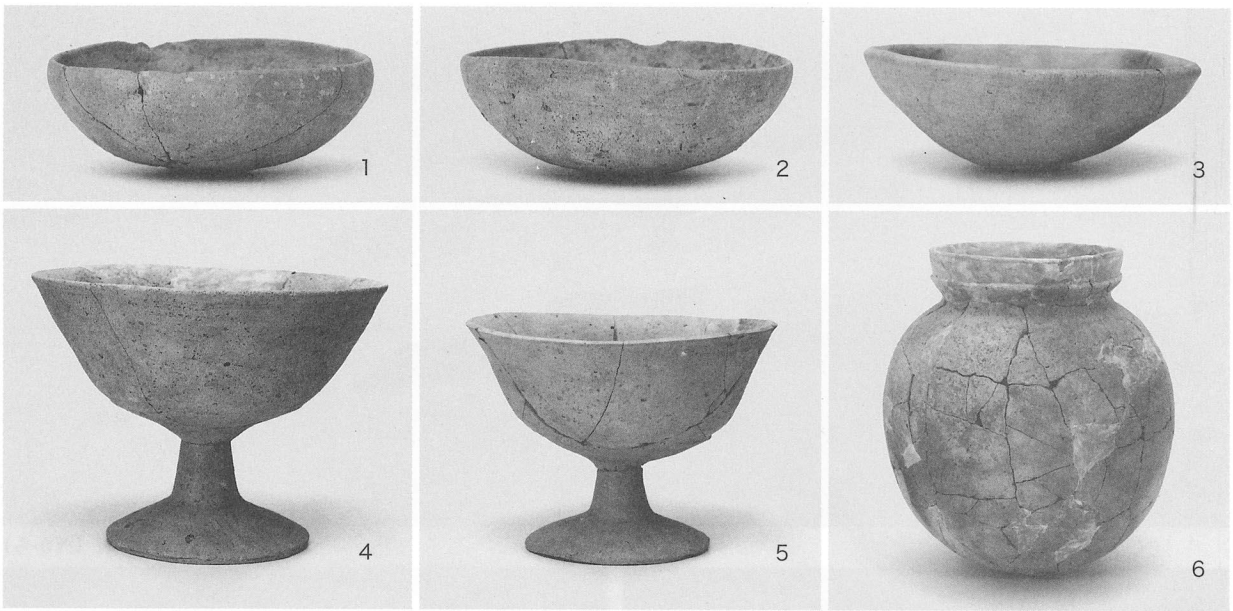
掘り方（西から）

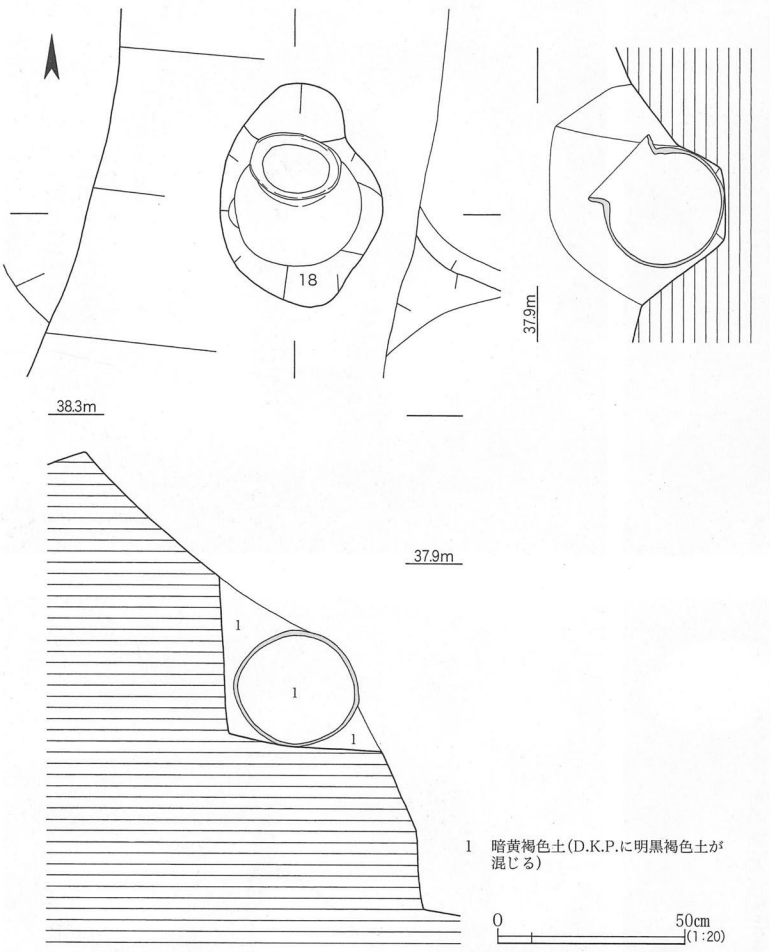
１号墳周溝南東供献土器　土師器甕６・埦３（南東から）



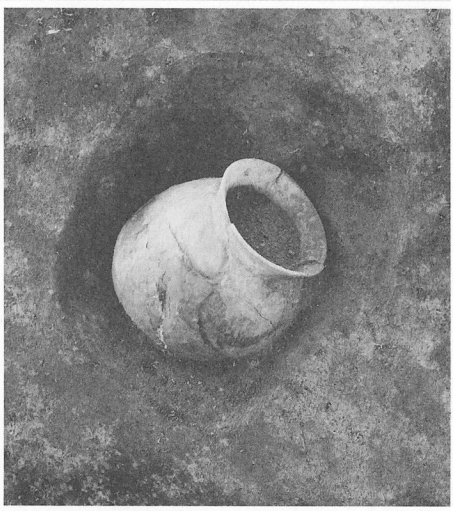
１号墳周溝南東供献土器　土師器高坏４・５、埦１・２(南から)

図版３

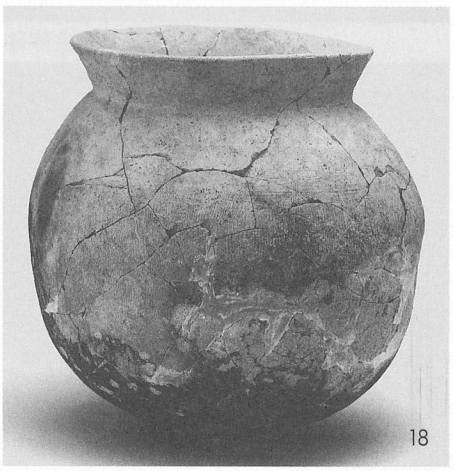




第４図　２号墳１号埋葬施設遺構図

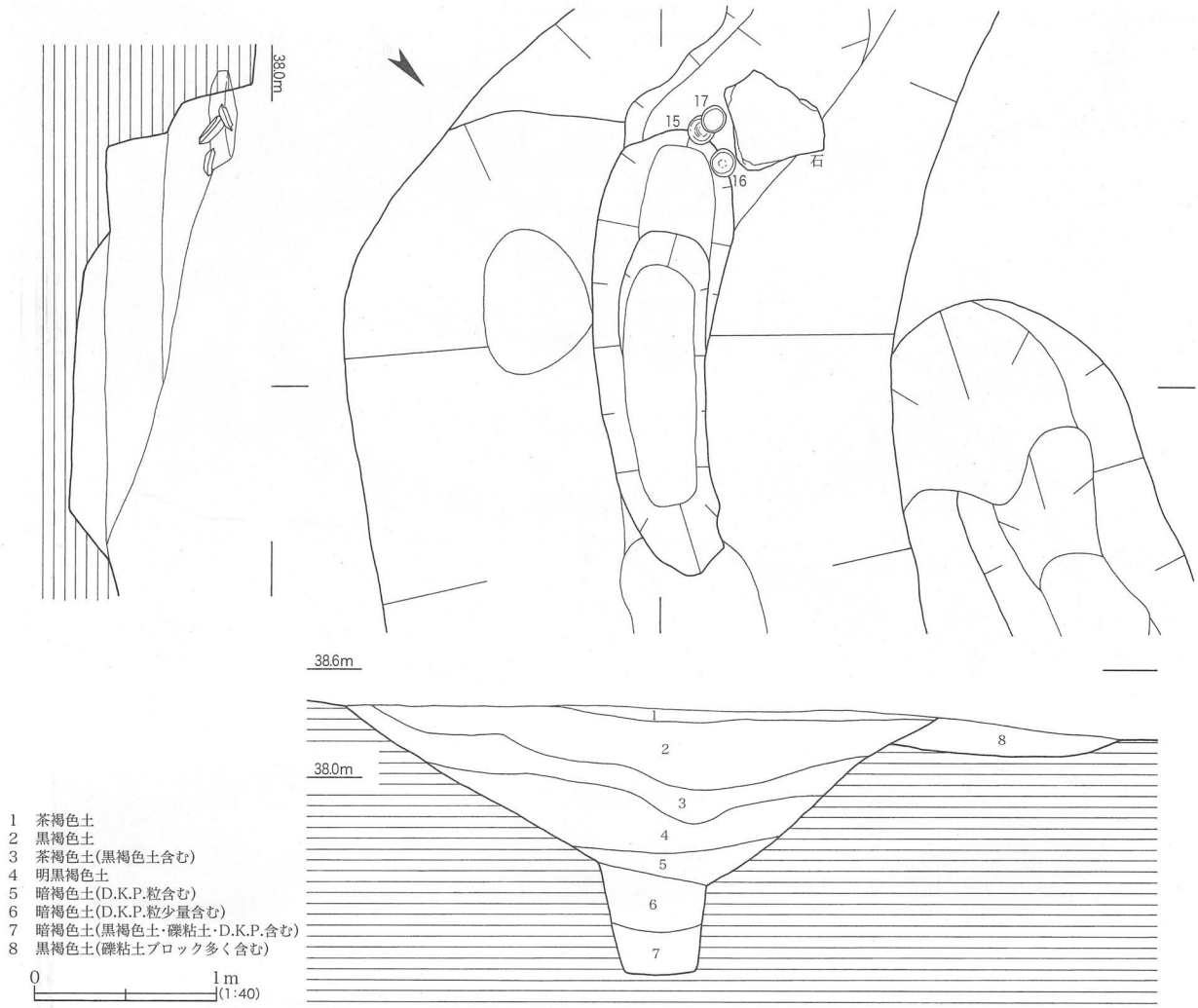


２号墳１号埋葬施設（西から）

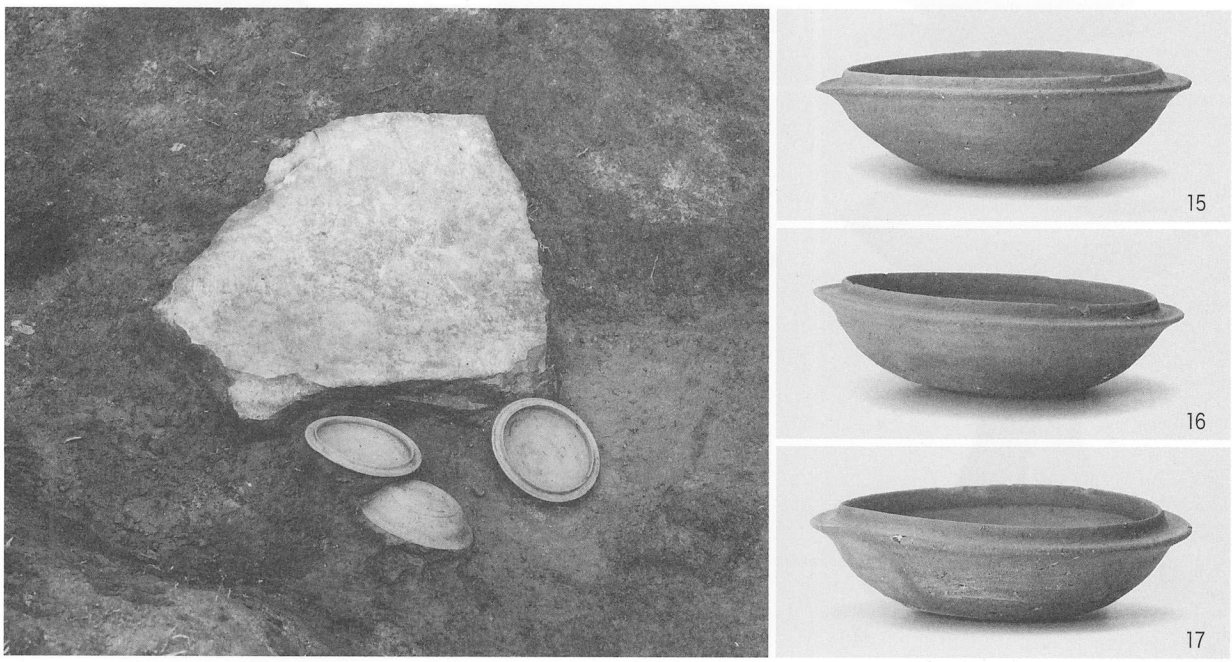


主体部　削平により遺存していない。

１号埋葬施設　墳丘東西中心線上の周溝の墳丘側斜面で土器棺墓を確認した。掘り方は0.6m×0.44mの不整な楕円形で、土師器甕18の口縁部を上にしてやや北に傾けている。この土師器外面下半は煤が多く付着しており、内部は掘り方と同じ土が詰まり、遺物や人骨は遺存していなかった。



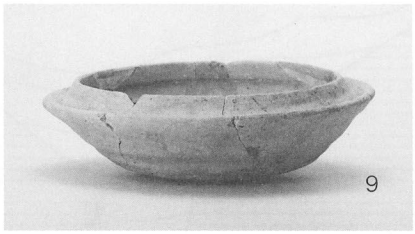
第５図　２号墳２号埋葬施設遺構図

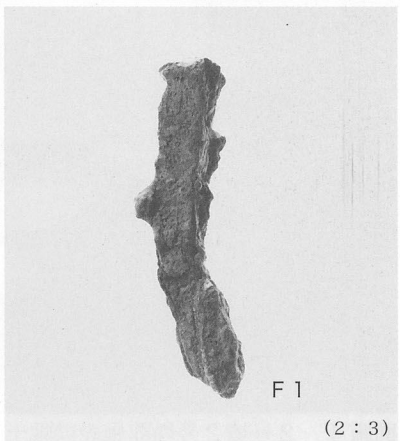


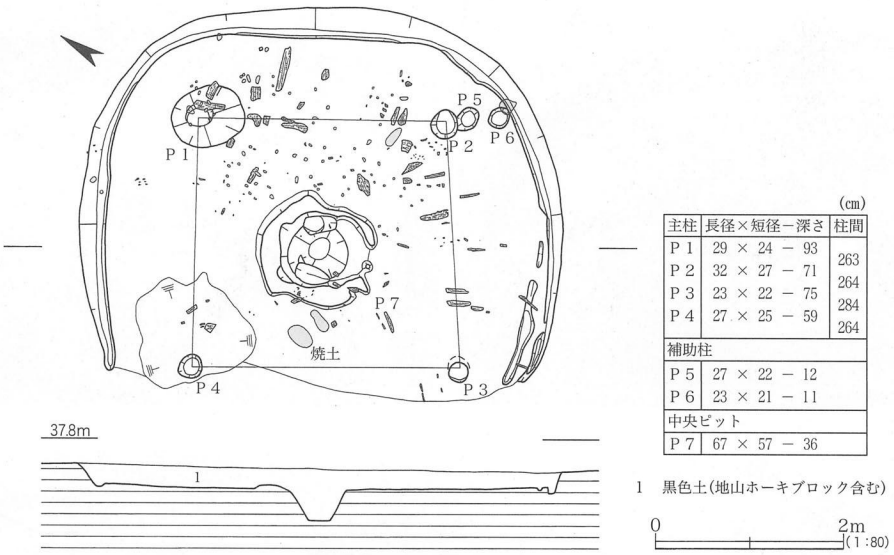
図版４　２号墳２号埋葬施設供献土器　須恵器坏身15～17（南から）

図版５

２号墳（東から）







(cm)

主柱	長径×短径－深さ	柱間
P1	29 × 24 － 93	263
P2	32 × 27 － 71	264
P3	23 × 22 － 75	284
P4	27 × 25 － 59	264
補助柱		
P5	27 × 22 － 12	
P6	23 × 21 － 11	
中央ピット		
P7	67 × 57 － 36	

第６図　１号住居遺構図

２号埋葬施設　周溝南東部に位置し、検出面規模は長さ2.45m×幅0.76m、深さ約0.6mである。南西側小口には、周溝底から約0.25m高い位置で供献台とみられる大きさ約0.6m×0.5m、厚さ約0.5mの板石と、台からずり落ちたとみられる還元状態の供献土器須恵器坏身15～17が出土した。このため南西頭位と推定される。

１号住居　調査区北寄りの丘陵南西斜面に位置する。平面形は隅丸長方形であるが、住居南西の低い側は地山を掘り込んでいないため周壁溝が確認できなかった。床面規模は4.72m×遺存長3.8m、遺存する床面積は15.8㎡である。検出面から床面までの最大壁高は0.64mである。主柱穴はＰ１～Ｐ４の４本柱、Ｐ７が中央ピットである。中央ピットの周囲はドーナツ状に最大幅約0.2m・最大高さ約0.04mの盛土がある。住居の南側は、周壁溝が内側にも部分的ではあるが存在し、拡張があったものとみられる。埋土中で焼土と炭が多く出土した。焼土は東側を中心に出土し、炭は放射状に出土した。この状況から焼失したものと考えられる。

出土遺物は中央ピットから作業台と推定される石が出土した以外は、弥生後期と推定される土器の小片が僅かにあるだけで図化できるようなものは出土していない。

落し穴　調査区中央やや南寄りで４基確認した。平面形は１号落し穴・２号落し穴が楕円、３号落し穴の検出面が隅丸長方形で底面は隅丸方形、４号落し穴が隅丸長方形である。検出面からの深さは最も浅い２号落し穴が1.03m、最も深い４号落し穴で1.24mとほぼ同じような深さである。底面の杭痕跡は１号落し穴に２つ、４号落し穴に１つある。いずれの落し穴も遺物は出土しなかった。

土壙　調査区中央やや東寄りで２基確認した。１号土壙は平面形が三角形で、検出面からの深さが約0.2mと浅い。２号土壙は平面形が楕円形で底面はいびつである。深さは約1.4mである。２号土壙の遺物は出土しなかった。

その他　調査区北東端で溝を２条確認した。溝は切り合うが新旧関係は不明である。２号溝は角張って折れ曲がるが部分的な確認にとどまる。遺物は出土しなかった。

遺物　出土した遺物は弥生土器・土師器・須恵器である。弥生土器は遺構に伴うもので図化可能なものはなかった。土師器は１号墳、２号墳とも出土したが、１号墳は須恵器が出土していない。以下、遺構毎に概要を述べる。

１号墳

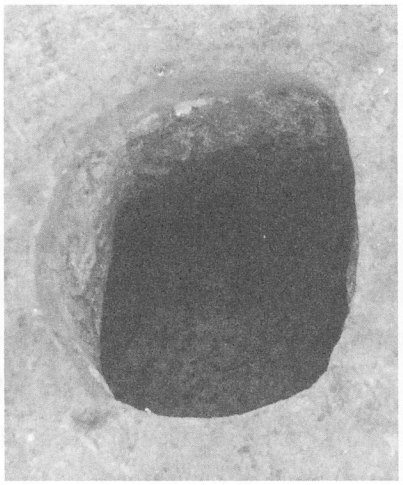
土師器　高坏４・５は坏底部と口縁部の境に稜をもつもので口縁部内面に多角形状のヘラミガキを施す。椀１・２は内面放射状のヘラミガキを施し、底部外面ケズリ。椀３はヘラミガキは無くやや厚ぼったい。いずれの椀に

図版６

１号住居　炭化材出土状況（南西から）

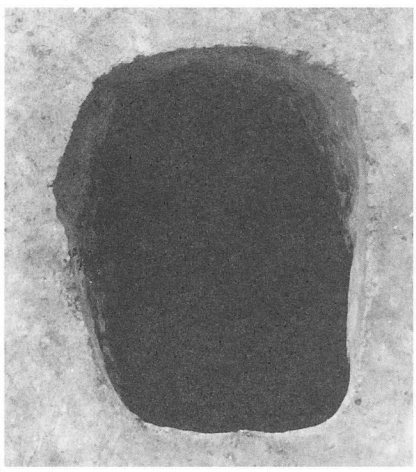
完掘（南西から）

１号落し穴（南東から）

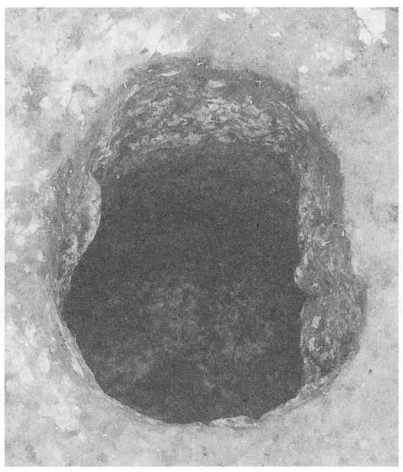


３号落し穴（南西から）

１号土壙（北西から）



２号落し穴（西から）



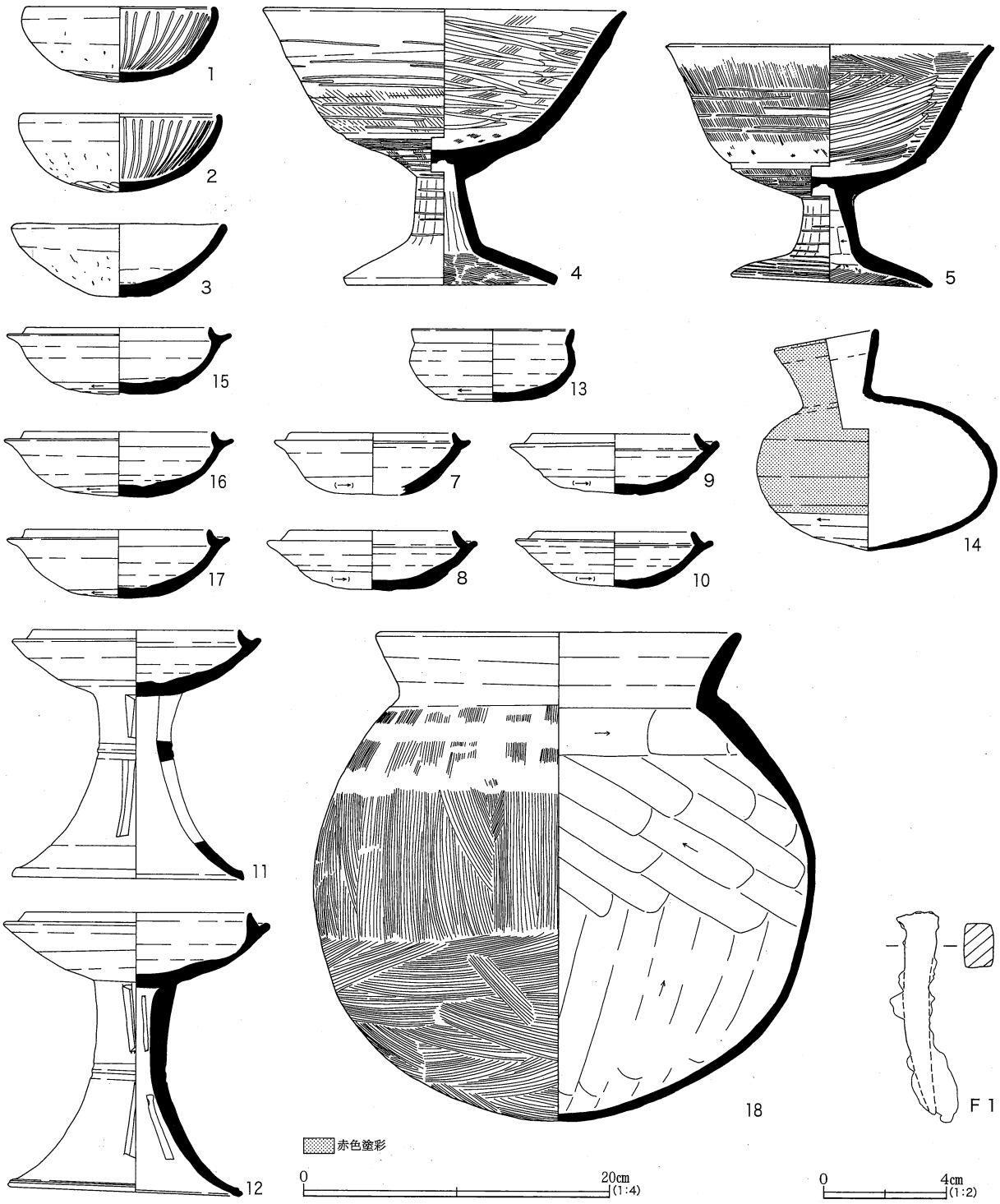
４号落し穴（南西から）

２号土壙（北から）

も外面に成形時の粘土のシワが残る。高坏４・５と椀１・２は一括遺物である。その他体部外面が粗いハケメの甕胴部片６がある。

２号墳

須恵器　坏身15～17は底部外面のヘラケズリの範囲が浅く、16は底部までケズリが及ばない部分が帯状に残る。３個体とも焼成が良好な酸化状態で、形態、調整が酷似している。有蓋高坏12は長脚２段２方透し、有蓋高坏11は２段３方透しで下段透しの下が沈線状にくぼむ。平瓶14は胴部が丸く肩の張らないもので、底部がヘラケズリによって尖る。口縁部内外面と胴部に赤色塗彩がある。以上の須恵器はＴＫ209段階に比定される。坏身７～10



第７図　１号・２号墳出土遺物

は底部外面ヘラ切り未調整で、ＴＫ217段階に比定される。短頸壺13は底部外面に丁寧なヘラケズリ、底部内面に仕上げナデを施す。時期は断定できないが、６世紀代（前半？）とみられる。その他、かえりがなくヘラ切り未調整の坏身片がある。

土師器　甕18は外反するくの字状の口縁で体部は球形。体部外面上半は縦方向のハケメ、下半は煤が付着する。

鉄釘Ｆ１　断面長方形の鉄釘で先端部が緩やかに曲がる。

210.2
Kur
(115)
図書館

Ⅳ　まとめ

調査によって、円墳２基、竪穴式住居１棟、落し穴４基、土壙２基、溝２条を確認した。ここでは、これらのうち古墳について分かったことを中心に整理し、まとめにかえることとする。

墳丘　２基の古墳とも円墳で、尾根上に連続して築造されている。墳丘規模は１号墳が直径約13.8m、２号墳が直径約10.3mと小規模である。墳丘盛土は遺存していない。

周溝　どちらの古墳も丘陵の高い側だけ掘り込み半周している。

埋没周溝　２号墳周溝の墳丘側で確認した埋没周溝は、切り合いから周溝より古いが周溝に接して並行することから、古墳築造工程の中で、墳丘の盛土以前に造られた設計溝と推定される。

埋葬施設　１号墳は中心主体として箱式石棺墓を１基確認したが、周溝内埋葬施設はなかった。２号墳は主体部は遺存していなかったが、墳丘東側周溝内で土師器甕の土器棺墓と、南東部で須恵器坏身を供献する埋葬施設を確認した。

供献土器　１号墳は南東周溝底で供献状態の土師器埦１～３、高坏４・５、甕６が出土した。これらは長谷遺跡の南に隣接する５紀後半築造の大平ラ遺跡１号墳・２号墳出土の土師器高坏・埦と形態・手法が類似しているが、甕６はハケメが粗く５紀末頃と推定される。大平ラ遺跡１号墳・２号墳は、同形・同数の高坏が同じ位置から出土して類似性が判明したが、長谷遺跡１号墳の供献土器とは器種構成に類似性は認められない。

２号墳も周溝南東部で供献土器が出土している。２号埋葬施設の供献土器須恵器坏身15～17はＴＫ209段階[註1)]で、その他墳丘から転落した土器は、須恵器有蓋高坏11・12、平瓶14がＴＫ209段階に、須恵器坏身７～10がＴＫ217段階に比定される。須恵器短頸壺13は底部外面丁寧なヘラケズリ、底部内面仕上げナデを施し、他の須恵器より古く６世紀代（前半？）のものである。土器棺の土師器甕18は、ＴＫ43段階の須恵器坏身を棺の蓋とする山際１号墳[註2)]２号壺棺墓の土師器にある、肩部外面の横方向のハケメがなくこれより新しい。また長瀬高浜遺跡[註3)]ＳＸＡ07の供献土器土師器甕は、ＴＫ217段階の宝球つまみをもつ須恵器坏蓋と伴に出土し、口縁部が大きく外反するものであり、土器棺の土師器甕18の方が古い。したがって、土師器甕18はＴＫ209段階頃の土器と推定される。

古墳の時期　１号墳は供献土器とほぼ同時期の５世紀末頃の築造と推定される。２号墳は、ＴＫ209からＴＫ217段階に比定される須恵器が供献土器として出土しており、１号埋葬施設の土器棺もＴＫ209段階頃であることから、６世紀末から７世紀初頭頃に築造されたと推定される。ただし、周溝底の中心主体に対する供献土器ではなく、古い時期の短頸壺13があるため、より古く築造された可能性も否定できないが決め手に欠く。

古墳はどちらも10m余りと小規模なもので、寺谷周辺の有力者の墓と推定される。しかし、１号墳と２号墳の関係や、調査区外に続く古墳群との関係、さらには南に隣接する１号墳と同時期の古墳群である大平ラ遺跡、谷を挟んだ北側にある若林１号墳・２号墳との関係について明らかにできなかった。今後に委ねたい。

註

1　田辺昭三　『須恵器大成』角川書店　1981年

2　「山際１号墳」『倉吉市埋蔵文化財調査報告書』　倉吉市教育委員会　1971年

3　『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅲ』(財)鳥取県教育文化財団　1981年

参考文献

眞田廣幸　『高鼻２号墳（灘手２号墳）発掘報告』　倉吉市教育委員会　1982年

岡本智則　『大平ラ遺跡・八幡山遺跡発掘調査報告書』　倉吉市教育委員会　2000年

報告書抄録

書名	長谷遺跡発掘調査報告書
副書名	一般国道313号（北条倉吉道路）道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	——
シリーズ名	倉吉市文化財調査報告書
シリーズ番号	第115集
編著者名	加藤誠司
編集機関	倉吉市教育委員会
所在地	〒682-8611　鳥取県倉吉市葵町722番地　ＴＥＬ0858-22-4419
発行年月日	西暦2002年３月29日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村：遺跡記号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
長谷遺跡	倉吉市寺谷字長谷	31203：４ＤＴＮ	35°27′ 3″	133°48′48″	20010629～20011213	5,180㎡	一般国道313号（北条倉吉道路）道路改良事業

所収遺跡名	種別	主な時代：主な遺構	主な遺物	特記事項
長谷遺跡	集落 古墳 落し穴	弥生：竪穴式住居　１棟 古墳：円墳　２基 縄文：落し穴　４基	弥生土器・須恵器・土師器・鉄釘	弥生時代後期の焼失住居。 丘陵尾根上に所在する後期の古墳。

長谷遺跡発掘調査報告書

一般国道３１３号（北条倉吉道路）
道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

平成14年３月29日　印刷
平成14年３月29日　発行

編集
発行　倉吉市教育委員会

印刷
製本　山本印刷株式会社